

しおふだ まつえじょうてんしゅしゅつど
塩札（松江城 天守出土）

江戸時代
松江歴史館蔵



「北浦」墨書塩札の一例（右は左の裏面）
（縦 24.7cm,横 4cm,厚さ 8mm）※「北浦」墨書は 5 枚ある

「嘉永三」年墨書塩札
（縦 27cm,横 9cm,厚さ 1.2cm）

昭和 25～30 年（1950～55）の松江城天守の解体修理工事の際、「塩蔵」ともいわれる天守地階から塩札（しおふだ）が出土しました。塩札とは、塩を入れた俵（塩俵）に付けられた墨書がある木札で、現在 40 枚確認されています。

江戸時代、年貢以外の雑税である小物成（こものなり）として、日本海沿いの漁村である浦（うら）は塩を松江藩に納めました。塩札の出土は、松江城に運ばれた塩俵の一部が天守の地階に備蓄されたことを物語っています。

40 枚の塩札のうち 36 枚には両面に墨書があります。片面に郡名、浦名、庄屋名、年寄名が、もう片面には塩の目方と「塩主」として生産者名が記してあり、松江城天守地階に備蓄された塩の生産地、目方、生産者を知ることができます。ちなみに、墨書の浦名は「菅浦（すげうら）」「片江浦（かたえうら）」「北浦（きたうら）」「野波浦（のなみうら）」「大芦浦（おわしうら）」「千酌浦（ちくみうら）」で、すべて島根郡の浦でした。当時、島根郡の浦々は、松江藩における塩の重要な生産地だったといえるでしょう。

残り 4 枚には片面に「塩式拾五俵」の文字と「嘉永三年」（1850）から「安政五年」（1858）の年号の墨書があります。19 世紀中頃、天守地階で塩が 25 俵ごとに管理されていたようです。

これらは、江戸時代末期における松江城天守での塩の備蓄状況や、松江藩内の塩生産・流通の一端を明らかにする貴重な資料として、平成 28 年（2016）に松江市指定文化財となりました。



塩札（松江城天守出土）の a 面



上記の b 面 (a 面の裏面)

<参考文献>

『松江市史 別編 I 松江城』（松江市、2018 年）

令和 2 年 6 月 23 日発行 執筆者 木下誠（当館学芸係長）